



第一回 一面作り
原田元市さん (富岡)



△原田さん作「あ・うんの面」

腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介します。

きっかけは六年前に知人からお面をもらったこと。幼少の頃から美術に興味を持っていた原田さんは、自分でも彫ってみようと思ったのだとか。いつしか、自らが営むクリエイティブ店の仕事が終わってから、毎日のように作品づくりに没頭するようになりました。

現在では、丸太を利用した火鉢、使わなくなった障子やすだれを利用した和風のついたてなど、作品の幅もどんどん広がっています。この六年間で作った総作品数は一五〇点以上。作業場でもある面処「がらくた工房」には、所狭しと作品が飾られています。

原田さんは我流で作品づくりをされていますが、どの作品のでもすばらしく、その秘訣をお尋ねすると、「師匠がいないから、逆に自分の自由な発想で作品づくりができて楽しい。それが作品に表れているのかも。」ということでした。これからはすばらしい作品をずっと作り続けてください。

展覧会と催しのご案内

「京都の日本画 近代」
～6月5日(日)
諸諺(ユーモア)と機智(ウィット)に富んだ京都の日本画を紹介いたします。

ギャラリートーク
5月28日(土)
13:30～14:30
陳列作品を解説します。参加無料(入館料のみ必要)

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3697
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

竹喬美術館の光彩 29

島二作(早春)
小野竹喬 作
大正五(一九一六)年
一五〇・〇×五〇・〇cm
第十回文展



「故里から東南にあたる神島は、其当時、狭い海峡を渡し舟でわたって行く。僅かばかりの村落の、内浦の途中から、すぐ急坂になって、外浦に通じる路となる。其高みになった所での取材である。其頃フランス後期印象派や、南画の影響もあって、条幅に、立体面をどのように表現したらよいか、いろいろと追及しているときであった。(竹喬のことば)」

〈島二作〉は竹喬が二十七歳の時の作品で、文部省美術展覧会に出品され特選となった。この早春を描いたものと冬の丘を描いたものとの一対からなるが、後年の竹喬のことばのとおり神島周辺に取材する。視線は畑の畦を追っていったん下り、藁葺き屋根の立体を境に竹林、樹木とたどって丘陵へと上昇する。画面を埋めるさまざまな緑が目鮮やかである。

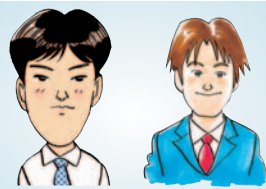
今月の表紙

エヒメアヤメ自生地東限地帯といわれている吉田地区。ここで、地元の人たちの手によって、開花の時期に毎年行われているのが「エヒメアヤマまつり」です。今年も、4月23日と24日の両日に開催され、会場となった箱田山神社には、エヒメアヤメの花を一目見ようと、アマチュアカメラマンや地区住民など、大勢の人が訪れました。その薄紫色の愛らしい花に、皆さんうつとりと見つめていました。

係から

新緑の季節となり、行楽のシーズンがやってきました。皆さん、既にゴールデンウィークの計画は決まりましたか。今年は、5月2日と6日をお休みすると10連休になる人もいらっしゃるのではないのでしょうか。

普段仕事で忙しく、あまり家族サービスをしていないお父さん方の中には、このゴールデンウィークを利用してと考えている人も多くはないでしょうか。私も、近場に家族みんなで行き、日頃あまりしていない家族サービスをして、少しでも罪滅ぼしをしておきたいと思っています。(松)



Matsuura Mukaihara

発行日/平成17年5月1日
発行/笠岡市役所
編集/まちづくり推進課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷/アドハウス ☎66-4670

笠岡市ホームページ: <http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス: machizukuri@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。



古紙配合率100%の再生紙を使用しています